

まるおかしょうあと

4. 丸岡城跡

所在地：坂井市丸岡町霞1丁目59番地

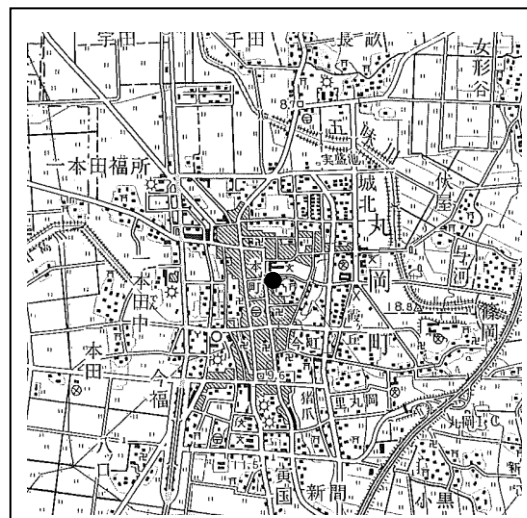
調査原因：内容確認

調査期間：平成28年10月17日～12月2日

調査主体：坂井市教育委員会

調査面積：約45m²

時代：近世～現代



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 丸岡城跡の本丸にあたる城山部の調査(5カ年計画のうち4年目)で、天守の北東広場、通称天守前広場において、内容確認調査を実施しました。調査は平成27年度調査で確認した柱穴などの広がりを確認し、天守以外の建物の規模や平面形を確認することを目的として行いました。

遺構 平成27年度調査で確認した柱穴に並ぶように、一間(約180cm)間隔で柱穴が確認できました。柱穴は北東―南西の方向に並んでおり、東側の斜面と並行するような配置です。正保期の絵図では、外観は描かれていませんが、「家屋」という表記が見られることから、何らかの建物跡と思われます。調査地の西側では深さ約1m、幅約1mの穴(土坑)も検出しました。調査地の南側では、石を積んだ遺構を検出しました。石積みは向かいあうように構築され、石積の間には底部に石を斜めに据えるなど、一見すると溝のような構造になっています。石積み遺構は東西方向に延びており、平成23年度の調査トレンチでも石積みの一部が確認されています。現在確認されている丸岡城の絵図に、今回検出された石積み遺構は描かれていません。

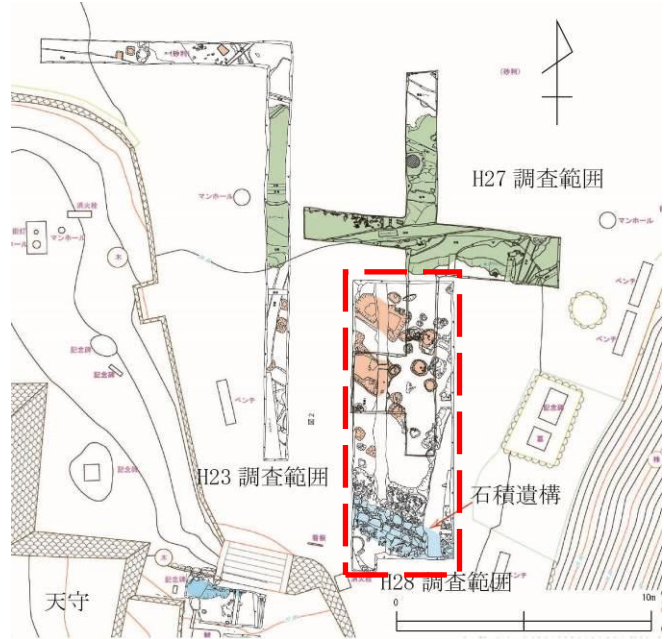
遺物 土坑からは完形品の土師質皿が出土しているほか、中世～近世初期の越前焼甕の口縁が出土しています。調査地の南西角からは越前焼の大甕が埋められた状態で完全な形で出土しましたが、調査の結果明治時代以降に埋められたことがわかりました。石積み遺構では、石積みの下層から土師質皿の細片が出土しています。土坑で出土した土師質皿と同じ時期のものと思われます。

また、17世紀よりも古い時期のものと思われる高坏の脚部が出土しています。

まとめ 調査の結果から、絵図にあるとおり天守前の広場に建物があったことが確認できました。文献では、藩主が参勤交代から戻った際に、天守に登るという儀式において、天守下の『番代所』という建物が使用されたという記録があり、今回確認された建物が番代所と考えられます。今後調査を進めて詳しい建物規模を確認していきたいと考えます。(堤 徹也)



第1図 『正保城絵図』の一部



第2図 トレンチ配置図

検出された石積みは絵図では確認できない。

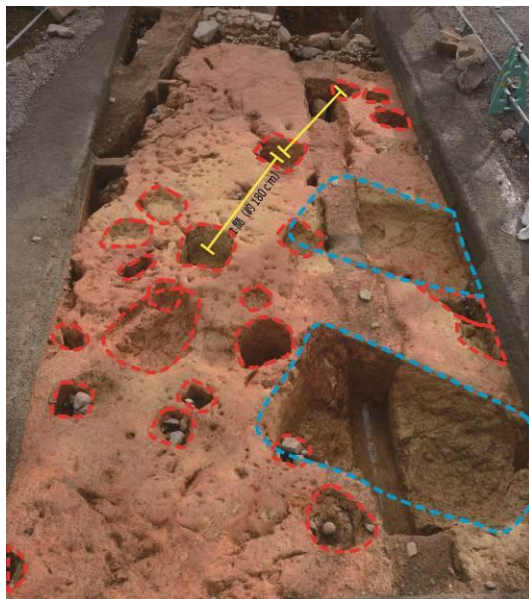


写真1 調査地全景（北から）



写真2 石積遺構（西から）



写真3 高坏脚部



写真4 土師質皿



写真5 越前焼甕